

創世記6章3節 「いつまでも引き止めない御霊」

1A ノアの日

1B 人口増加&文明

2B 心に図ること

3B 暴虐

4B 倒錯

2A 誤りを認めさせる方

1B 奮闘される方

2B 御霊の呼びかけ

1C 論じられる方

2C 神のことば

3C 苦しみや痛み

3A 忍耐される神

1B 悔い改め

2B 神の愛

4A 必ず裁かれる方

1B 定められた時

2B 火による裁き

本文

私たちの聖書通読の学びは、創世記 5 章まで来ていました。今日は、午後の礼拝で創世記 6-7 章を見ていきます。今朝は、6 章 3 節に注目します。「6:3 **そこで、【主】は言われた。「わたしの霊は、人のうちに永久にとどまることはない。人は肉にすぎないからだ。だから、人の齢は百二十年にしよう。」**」

私たちは、アダムとエバがエデンの園から追放された後のことを読んできました。彼らに、カインが与えられ、次にアベルが生まれました。カインもアベルも、献げ物を主にしたら、アベルのを主は受け入れられましたが、カインのは目に留められませんでした。それで、怒り、落ち込みました。そしてアベルを妬み、殺したのです。

この暴虐の種が、カインの子孫に受け継がれていったのを見ました。カインの子孫にレメクがいましたが、自分が傷を受けたら相手を殺すといって豪語しています。こういった中で、ノアの時代の墮落と暴虐の世界が広がっています。

その一方で、アダムとエバは、セツを生みました。セルの子孫から、主の名を呼び求める人々が現れます。そして、エノクは神と共に歩み、死なずに天に移されたほどです。そしてこのエノクは、神の正しい裁きがあることを教えます。そして、ノアが生まれるのです。父の名は、同じレメクです。彼は息子に、慰めを意味するノアという名をつけました。

そんな中で、人の世界に悪霊の世界が入ってきました。6 章 1-2 節を見てください、「6:1-2 さて、人が大地の面に増え始め、娘たちが彼らに生まれたとき、2 神の子らは、人の娘たちが美しいのを見て、それぞれ自分が選んだ者を妻とした。」この神の子らとはだれでしょうか？午後の礼拝で詳しく説明しますが、結論から言いますと、墮落した天使たちです。なんと、霊的な存在であるはずの天使たちが、人間の女に近づいて性行為をしていくのです。

私たちは、人間の世界が腐敗して、罪がはびこる時に、悪霊が入り込んで、人のすることとは思えない恐ろしいことを見ることがあります。パウロが、次のように言いました。「Ⅰテモ 4:1-2 しかし、御霊が明らかに言われるように、後の時代になると、ある人たちは惑わす霊と悪霊の教えとに心を奪われ、信仰から離れるようになります。2 それは、良心が麻痺した、偽りを語る者たちの偽善によるものです。」人々が神から離れていると、そこに悪霊が強く働き、その墮落の度合いが加速化するのです。

1A ノアの日

主イエスは、ご自身が戻ってこられる時代が、ノアの日のようなことを語っておられます。「ルカ 17:26-27 ちょうど、ノアの日が起こったのと同じことが、人の子の日にも起こります。27 ノアが箱舟に入るその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしていましたが、洪水が来て、すべての人を滅ぼしてしまいました。」ノアの時代の状況が再び繰り返され、それで主が正しく裁かれるために、戻られるのです。

1B 人口増加&文明

私たちはどうしても、聖書を見て、私たちはそれほど悪くないと思ってしまいます。6 章に書かれている、人々の墮落した姿を見ると、自分たちはそこから教訓を学んだはずで、それよりは成長しているはず、進歩しているはずと思います。けれども、聖書を読めば読むほど、人類は何も変わっていないことを知ります。

1 節に、「人が大地の面に増え始め」とあります。5 章で見ましたように、人の寿命は当時、とても長かったです。その間に、息子たち、娘たちを生んでいます。ですから、子孫の数はたちまち増えていて、人口がかなりあると思われます。1 億人以上いたとしても、何らおかしくないでしょう。

さらに、カインの子孫には、文明の父祖になるような人物が現れていました。「4:20-22 アダはヤ

バルを産んだ。ヤバルは天幕に住む者、家畜を飼う者の先祖となった。21 その弟の名はユバルであった。彼は竖琴と笛を奏でるすべての者の先祖となった。22 一方、ツィラはトバル・カインを産んだ。彼は青銅と鉄のあらゆる道具を造る者であった。」農業の発展、音楽の発展、そして鉄器や青銅の道具の発展が書かれています。特に鉄器については驚くべきもので、考古学では紀元後十世紀にならないと鉄器は使用されていなかったと言っています。しかし、大洪水の前には、すでにこのように発達していたのです。

こうやって見ると、私たちの時代、現代にさほど変わらないことに気づくでしょう。今、先進国では人口減少が言われていますが、世界全体で見れば、どんどん増えています。そして、AI 技術であるとか、とにかく技術進歩が著しいです。では、それで人々の道徳は向上したでしょうか？いや、技術進歩が発達すると同時に、人の悪も増大していますね。SNS がなければ、匿名性の高い中傷によって、自殺に追い込まれる人たちは出てこなかったと思います。技術や文明が発達すれば、それだけ人々の墮落が激しくなっていることが分かります。「闇バイト」なんていう言葉も、インターネットがなければ、存在しなかったでしょう。黒幕が外国に拠点を置いているのですが、実行役に指示を与えることができるのは、インターネットがあるからです。

2B 心に図ること

6章5節には、「【主】は、地上に人の悪が増大し、その心に図ることがみな、いつも悪に傾くのをご覧になった。」ここで大事になる言葉は、「心に図ること」です。第一に、悪が増大しているので、人々が、それはしてもよいことだ、許容されるのだと思い込みます。何となく、やってもいいだろうと心に思い図るのです。英語では、suggestive という言葉があります。「何となく、それとなく」という意味です。何となく、それとなく悪が拡散します。誰かが行くと、すぐに影響されていきます。それが、心の思い図りの中で起こっているからです。

第二に、悪が増大するのは、たとえ、行動に出なくても、悪に同意しているためです。悪が行われても、それを悪とせず、許容するのです。「ロマ 1:32 彼らは、そのような行いをする者たちが死に値するという神の定めを知りながら、自らそれを行っているだけでなく、それを行う者たちに同意もしているのです。」私たちは、思いの中にいろいろな悪を宿しています。それを実行する人は少ないかもしれません。でも、自分たちも何か機会が与えられたら、それを行っても何もおかしくありません。戦争や暴動が起こっている時に、人は、通常ならば決してできないことを、いとも簡単に行えてしまいます。それは、機会を得たからです。

それに関連して、第三に、自分自身の心に制限がかからないのです。思ったことは、何でも正しい、やってもよいと思うようになりました。今も同じです。今世紀と、その前は大きな変化がありました。以前は、客観的な事実があり、善と悪も客観的に存在するとしました。今は、一人一人が善と悪の価値観があり、客観的なものは存在しないとしました。自分が正しいと思っていることが、正

義なのだとしました。一見、これで寛容な世界ができると思いますね。いいえ、その反対です。ものすごい悪を行っている人がいても、それを悪だと言えなくなったのです。その人が善だと信じていることが善だからです。そうやって、自分の気持ちや思いが絶対になり、真理になり、一人一人が神になったのです。

そして最後、第四に、人はそもそも悪に傾く心を持っています。アダムが罪を犯して、生まれた時から悪を有しています。主は、イスラエルをご自分の民に建てました。あらゆる良いことを民に行われました。こうすれば生きることができると約束し、律法を与えました。けれども、彼らは神に背き、悪を行いました。主によって守られていたのにも拘らず、主がついておられたのにも拘らず、なぜ、周囲の人々と同じ悪、いやそれ以上の悪を行うことができたのか？その心にある悪の奥深さを、預言者エレミヤは、こう表現しています。「17:9 人の心は何よりもねじ曲がっている。それは癒やしがたい。だが、それを知り尽くすことができるだろうか。」

3B 暴虐

そして、ノアの日、暴虐に満ちていました。「6:11-12 地は神の前に墮落し、地は暴虐で満ちていた。12 神が地をご覧になると、見よ、それは墮落していた。すべての肉なるものが、地上で自分の道を乱していたからである。」暴虐というのは、何も、暴力を誰かに振るうだけのことでありません。自分の利益のために、他人を押しつけるあらゆることです。言葉によって、行動によって、他人を押しつけます。要は、自己中になったということです。

4B 倒錯

そして、倒錯も増えます。倒錯とは、自然の成り行きから外れた形で物事を行うことです。神の子らが、人の娘を妻にしていくなんて、ありえないと思います。けれども、人はいろいろな形の結婚を言い始めました。初めは同性婚です。今は、ポリアモリーというものがあります。これは、自分の付き合っている相手の同意を得て、他の異性と付き合うことです。そして、小児愛者にも人権があり、その性的志向を尊重しなければいけないという声が、欧州では早速、聞かれています。さらに、獣婚があります。獣と性交渉をすることです。また、恐ろしいのは日本初です。アニメのキャラクターとの結婚です。生きていないものとの結婚です。

しかし人々は、日常生活を送れているので、こうした問題は大きなことがないと片づけてしまいます。先ほど読んだ、ノアの日についてのイエス様のことばには、「ノアが箱舟に入るその日まで、人々は食べたり飲んだり、めとったり嫁いだりしていましたが、洪水が来て、すべての人を滅ぼしてしまいました」とありました。直前まで、日常の生活を営んでいたのです。逆に言うと、正常性バイアスがかかってしまって、世があまりにもおかしくなっていることは分かっているけれども、見ないようにして、異常になっているのに正常とばかりに、日々を営んでいるのです。

これらのことに対して、主はどう感じておられるでしょうか。「6:6 **それで【主】は、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。**」主が、ご自分のかたちに造られた人が、このようになってしまいました。それで、非常に残念に思われています。心を痛めておられます。

2A 誤りを認めさせる方

しかし、主は、決して彼らをすぐに消し去ろうと思われたのではありません。聖書は一貫して、神が、憐れみ深いことを教えています。主の名前を、神がモーセに明かした時に、長い名前を示されました。「出 34:6b-7【主】、【主】は、あわれみ深く、情け深い神。怒るのに遅く、恵みとまことに富み、恵みを千代まで保ち、咎と背きと罪を赦す。しかし、罰すべき者を必ず罰して、父の咎を子に、さらに子の子に、三代、四代に報いる者である。」憐れみ深く、情け深いのです。

1B 奮闘される方

なので、冒頭に読んだ 3 節なのです。日本語の訳は、「**わたしの霊は、人のうちに永久にとどまることはない。**」となっています。ここの「とどまる」は、ヘブル語では、奮闘する、争う、さばくとか、人の心に葛藤をもたらすという意味合いの言葉になっています。神が、ご自分の霊によって、人々の悪に傾く、心の思い図りに、待ったをかけてくださっているのです。

テサロニケ第二 2 章には、不法の秘密が働いているけれども、引き止めるものがあるとパウロが説明していました。「2:6-7 **不法の者がその定められた時に現れるようにと、今はその者を引き止めているものがあることを、あなたがたは知っています。7 不法の秘密はすでに働いています。ただし、秘密であるのは、今引き止めている者が取り除かれる時までのことです。**」神の御霊は、待った！をかけて、邪魔しているんですね。

自分に与えられている自由を、悪を行なうことだけに使っている時に、主が私たちの良心を通して、ご自分の霊によって悩ませ、苦悩させ、罪意識を持たせ、何とかしてその悪を捨てるように促してくださるのです。主は、御霊について、「ヨハ 16:8 **その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世の誤りを明らかにされます**」と言われました。

2B 御霊の呼びかけ

1C 論じられる方

主の御霊は、私たちに福音をもって論じてくださいます。罪を犯していたユダの民に、主は語られました。「イザ 1:18 **「さあ、来たれ。論じ合おう。——【主】は言われる——たとえ、あなたがたの罪が緋のように赤くても、雪のように白くなる。たとえ、紅のように赤くても、羊の毛のようになる。」**」主は、彼らの罪を取り除きたいと願われています。主の憐れみ、恵みによって、その罪を取り除き、雪のように白くする、羊の毛のようにすると言われています。どんなに、自分の罪が身体に、また魂に沁みついていたとしても、わたしはきれいに取り除くことができるのだと言われます。

2C 神のことば

実は、ノアはこのことを、箱舟を造っている間に行っていました。「Ⅱ ペテ 2:5 また、かつての世界を放置せず、不敬虔な者たちの世界に洪水をもたらし、義を宣べ伝えたノアたち八人を保護されました。」ノアは義を宣べ伝えていました。3 節には、「**だから、人の齢は百二十年にしよう**」とありますが、訳によっては、「人の日々は百二十年にしよう」ともなっています。寿命ではなく、主がさばかれるまでに、あと百二十年にすると告げているとも解釈できます。

ノアが、箱舟を造りなさいと命じられたのがいつか分かりませんが、かなり長い期間、例えば百年間、語っていたことも十分にあり得ます。それで、神のことばによって、御霊が人々に語っておられたのです。それなのに人々は聞かなかった。なんと、ノアの家族八人以外は、箱舟の中に入らなかったのです。人々には、それだけ救われる機会が豊かにあったのです。

3C 苦しみや痛み

そして、御霊は、苦しみや痛みによって私たちの心を揺さぶってくださいます。「詩 119:71 **苦しみにあったことは私にとって幸せでした。それにより私はあなたのおきてを学びました。**」主を信じた人々の中で、何らかの悩み、苦しみ、試練を経ている人は、どれだけいるでしょうか？主が確実に語りかけてくださったと分かるのは、何かの苦しみ、至らなさ、悩みがあったからです。そういった時にこそ、自分がなぜ生きているのか、何により頼んできたのかを、深く考えることができるからです。C.S.ルイスという人がこう言いました。「神は、私たちが快楽を楽しんでいる時、囁かれる。良心に対しては語られる。しかし、私たちの痛みに対しては叫ばれる。痛みは、耳の聞こえなくなった世界を呼び覚ますための、神の拡声器なのだ。」

3A 忍耐される神

1B 悔い改め

ペテロは第二の手紙で、ノアの水の裁きについて語っています。今の世界は、水の裁きの後によって成り立っている世界で、次は火の裁きが来ると言っています。けれども、主は忍耐深い方だと説いています。「3:9 **主は、ある人たちが遅れていると思っているように、約束したことを遅らせているのではなく、あなたがたに対して忍耐しておられるのです。だれも滅びることがなく、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。**」

2B 神の愛

ですから、私たちに心の葛藤が与えられている時、それは神が愛しているからだということを忘れないでください。自分のやりたいと思っていることが、なかなかできない時。いや、やりたいことができているけれども、いつ、それがなくなるか漠然とした不安を抱いている時。やりたいことをやっているのに、虚しさを感じる時。すべて、それらの否定的な思いは、主が愛しているからなのです。すべては、神にこそ救いがあり、その独り子に、永遠のいのちがあることを教えるためです。

「ヨハ 3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

4A 必ず裁かれる方

1B 定められた時

しかし、人は、この神の忍耐を間違っています。自分たちが思いのままやっているけれども、何も起こらないから、神は裁くことはしないと思い違いしています。そして不遜にも、ちょっと何か悪いことが起こると、「なんで、神はこうしたことを許されるのか」として、神を非難するのです。いつまでも、自分が正しいとして、神が間違っているとします。

違います。神は、忍耐深い方で、待ってくださる方ですが、裁きを行われたい方ではないのです。ノアの日においては、百二十年という期間があったのです。そして事実、その期間が過ぎれば、大洪水によって、陸上のすべての生き物が死んだのです。

2B 火による裁き

私たちは、周囲の人の小言、煙たいことを言う人って、大事だと思いませんか？何かいつも注意する人がいると、「うるさいな！」と思いますね。私なんか、何も奥さんが話していないのに、予防的に「うるさいな！」と言って、冗談を言っています。例えば、一生懸命、説教の準備をしているのに、「ご飯だよ」と言われます。「ちょっと待って」というと、「じゃあ、先に食べるから」といいます。選択肢をなくしていくんですね。いやだなーと感じますが、では、彼女が外出して一人で食べないといけない時、自分は食べるのも忘れて、パソコンの前で取り組みますが、どんどん不摂生になるんですね。それで今は、一人でいても、一旦、パソコンから離れて昼食とか作るようにしています。

小言や煙たいことを言われるのは、愛されているのです。自分の感じていること、思っていること、考えていることに邪魔が入るのはすばらしいことなのです。それが神に対しても同じで、御霊によって、私たちが自分の道が真っすぐだと思って歩いているけれども、滅びへの道だと教えてくれます。今が、恵みの時ですから、今、その恵みを受け取ってください。

最後に、ペテロがノアの日のことを取り上げて、火による裁きがあることを警告している部分を読んで、終わりにします。「Ⅱペテ 3:3-7 まず第一に、心得ておきなさい。終わりの時に、嘲る者たちが現れて嘲り、自分たちの欲望に従いながら、4 こう言います。「彼の来臨の約束はどこにあるのか。父たちが眠りについた後も、すべてが創造のはじめからのままではないか。」5 こう主張する彼らは、次のことを見落としています。天は大昔からあり、地は神のことばによって、水から出て、水を通して成ったのであり、6 そのみことばのゆえに、当時の世界は水におおわれて滅びました。7 しかし、今ある天と地は、同じみことばによって、火で焼かれるために取っておかれ、不敬虔な者たちのさばきと滅びの日まで保たれているのです。」